

令和6年度第2回播磨町行政改革懇談会 議事概要

日 時	令和7年2月18日(火) 10:00 ~ 11:30
場 所	播磨町役場 第一庁舎3階 BC会議室
出席者	<p>【 播磨町行政改革懇談会委員 】</p> <p>中本 淳 (兵庫大学・兵庫大学短期大学部) (会長)</p> <p>鶴井 昌徹 (播磨町商工会)</p> <p>安部 昭男 (播磨町自治会連合会)</p> <p>圓行 弘幸 (播磨町労働者福祉協議会)</p> <p>宮尾 尚子 (播磨町社会福祉協議会)</p> <p>大形 実香 (株式会社みなと銀行)</p> <p>澤木 俊昌 (税理士)</p> <p>堀井 桂子 (キューピットこども園)</p> <p>松下 嘉城 (住民委員)</p> <p>平岡 尚子 (住民委員)</p> <p>【 町 】</p> <p>佐伯 謙作 (町長)</p> <p>平野 祐次 (副町長)</p> <p>平郡 秀幸 (教育長)</p> <p>松本 弘毅 (企画総務部長)</p> <p>藤原 秀樹 (福祉保険部長)</p> <p>長谷川 善一 (福祉保険部保険担当部長)</p> <p>【 事務局 】</p> <p>筒井 和秀 (企画課長)</p> <p>大路 英一 (企画課課長補佐)</p> <p>丸井 直樹 (企画課主査)</p> <p>【 報告者 】</p> <p>小河畑 珠貴 (保険課長)</p> <p>福島 晴樹 (保険課係長)</p> <p>竹内 万梨 (健康福祉課課長補佐)</p>
欠席者	<p>【 播磨町行政改革懇談会委員 】</p> <p>米津 実千代 (教育委員)</p>

議事1 あいさつ

(町長)

平素より播磨町行政にご尽力いただきまして、誠にありがとうございます。

行政改革を通じて、住民に還元できるような取り組みが今の行政に期待されていると思いますので、精進していきたいと思います。

また、町の組織再編や、一つの事業に複数の課が対応できるような体制もとらせていただいています。その上で、令和7年度には播磨町独自の施策も数多く予定しています。

新しい行政改革を目指す播磨町にとって、皆様のご意見が大変重要であります。皆様の忌憚のないご意見を賜り、今後の播磨町についてご議論いただきたく思います。

この懇談会でますます播磨町の行政が発展していくとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、挨拶に代えさせていただきます。

本日はどうぞよろしく申し上げます。

議事2 報告

(1) フレイル予防について

ー説明・フレイルいすの体験ー

(会長)

ただ今の説明やフレイルいすの体験につきまして、委員の皆様からご質問やご意見を伺いたいと思います。

いかがでしょうか。

(委員)

いすを使って皆で楽しみながらフレイルについての評価ができるのはすごく良い企画だと思います。しかし、外出して公共施設等に置いてあるこのいすを利用できない人もたくさんいると思います。この方たちにどうアプローチするか、引きこもりの方を引っ張り出すくらいの思い切った施策が必要だと思うのですが、播磨町としての考えをお聞かせください。

(町長)

令和7年度に、行政、社会福祉協議会、民生委員が一体となったアウトリーチ型の支援を実施したいと思っています。それにはしっかりとした体制を構築しなければなりません。また、それぞれの役割分担を決めなければいけません。きちんと仕組みと制度をつくらせて政策を展開していきたくと思っています。

(委員)

数字が重要な訳ではないのですが、潜在的に支援が必要な方にアプローチできるかどうかで変わってくると思います。具体的な計画はあるのでしょうか。

(町長)

シニアもそうですが、子どもも同様に、教育委員会、行政、学校が連携しないと個別の事情はわかりません。しっかりと役割を明確化してから、いろんな政策を展開していきたいと思っています。

(会長)

フレイルいすの体験は利用者も多く、すごくいい取り組みだと思うのですが、そこに行く人はある程度健康な人ということになります。結局そこに行けない人がどのように自分の状態を自覚して改善するか、そこに対するアプローチが必要になってくると思います。

もう一つはフレイルいすを設置したことで、町全体として平均寿命等がどのように改善していくかということをしっかり把握してほしいと思います。

(事務局)

平均自立期間については兵庫県後期高齢者医療広域連合が結果を追跡していますので、評価指標の一つとして見ながらフレイルの取り組みを継続していきたいと思っています。

(2) 孤独・孤立対策について

—説明・動画の上映—

(会長)

ただ今の説明につきまして、委員の皆様からご質問やご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

(委員)

孤独は決して悪いものではありません。むしろ大勢の中で孤立していることの方がよっぽど寂しいと思います。特に高齢者にとってはそういった面もあります。ですから、播磨町は孤独も楽しめるまち、孤独な人にも居場所があります、というアプローチも必要ではないかと思います。一人は可哀そうという思い込みを無くしてもいいのではないかと思いました。一人でもいい。でも困ったときにはいつでも播磨町を頼ってほしいということ

拡げていただきたいと思います。

(町長)

昨年度に地域包括支援センターを福祉会館に移転し、成年後見センターも開設しました。また令和8年2月には児童発達支援センターも開設する予定です。医師や言語療法士などを配置して、18歳まで切れ目のない支援体制を目指しています。

(会長)

孤独・孤立している人の数を把握するのは難しいとは思いますが、何らかの指標があれば、どのような効果が得られたか示すことができるのではないかと思います。

(事務局)

令和7年4月にプラットフォームを立ち上げ、支援者が集って情報交換をします。客観的な評価は難しいと思いますが、その話し合いの中で行政や民間、支援団体に繋がりができたとか、何かメリットがあったとか、一つずつ評価をしていきたいと思っています。そして、どのように評価するかは、いろんな方からご意見をいただきたいと思います。

(町長)

不登校対策でも、今は学校に行くことが全てではなく、一歩でも家から出て社会と繋がることが大切だと言われています。播磨町ではコミセンサテライトとあって、コミュニティセンターを居場所としており、そこや教育委員会のふれあいルームに来れば出席扱いにしているので、学校の保健室以外に居場所があります。どの場所に何人来ているかは把握しています。

(会長)

それがしっかり出来れば正に孤独・孤立の対策になると思います。目指すべき方向がよくわかりました。ありがとうございました。

(委員)

先ほどの説明の中で、働いている人でも孤独を感じている方が多いというお話がありましたが、どこにも所属しておらず、本当に社会と繋がっていない方は多いのでしょうか。

(事務局)

播磨町独自では調査をしていませんが、内閣府が全国調査をしています。当初、孤独・孤立を感じているのは高齢者の割合が高いと予測していましたが、実は働き世代の20代

から 50 代の方が孤独を感じている割合が高いという結果が出ています。おそらく高齢者はいろいろなサービスが充実してきたので何らかの繋がりがあるが、働き世代は実は仕事と家庭の往復で孤独を感じていたり、不安があっても相談できないのではないかと考えられています。若い世代に対しても孤独・孤立対策を進めていく必要がありますし、引きこもりや自殺に対しても全世代への啓発は必要だと思っています。また、働き世代にどうアプローチするかも今後の課題だと思っています。

(教育長)

先ほど町長からも不登校の話がありましたが、コミセンサテライトは令和 5 年 5 月に開設し、現在約 10 名が利用しています。そこから教育委員会にあるふれあいルームに来るようになり、また学校に通い始める子もいます。多くの人は、集団の中で感じる孤独が一番嫌です。少しでもそのように感じる事のない繋がりのある社会であってほしいと思っています。

また、年間通算 30 日以上欠席で不登校としています。全国では全体の約 3.7%の児童生徒が不登校ですが、播磨町は約 4%となっています。

(町長)

播磨町で全く学校に来ていない子は少ないので、数字だけでは判断できないと思います。

(教育長)

例えば、起立性調節障害などの症状があれば病気の扱いになるのですが、特に病状がなくて月に 3 日欠席すると不登校になってしまいます。本人も少し欠席が多いな、くらいの感覚であれば自分自身が不登校と気付かない子もいます。

(3) 第 5 次播磨町行政改革実施計画の進捗状況について

－事務局から説明－

(委員)

「No.25 ふるさと納税制度の活用による自主財源の確保」について、佐伯町長が就任する時にふるさと納税の返礼品開発に取り組むとコメントされていたと思うが、なぜ今この項目を追加されたのですか。

また、目標値がなぜ令和 7 年度ではなく令和 8 年度になっているのか、考え方をお聞きします。

(事務局)

ふるさと納税の目的の1つは税収の確保ですが、やはり返礼品を整備することにより地域産業の活性化や特産品の開発に繋がります。令和6年度に返礼品が準備でき制度が整いましたので、今回挙げさせていただきました。

目標の設定に関しては、実施計画の期間が2年間延長になりましたので令和8年度の目標額を設定しています。

(町長)

企業版ふるさと納税による寄附金は累計で約1千万円を超え、寄附金以外でもイベント等で協賛をいただいています。本当に皆さんのお力添えに感謝申し上げます。

ふるさと納税も今では本来の趣旨と変わってきているように思います。地域産業の活性化にはつながるので、特産品の開発は続けていきたいと思っています。

(委員)

「No.23 広告事業の拡大」のホームページのバナー広告は効率がいいので、もっと増やせる余地があると思うのですが、いかがですか。

(事務局)

継続している事業者はいるのですが、新規事業者はなかなかおらず、引き続きPRしていきたいと思っています。

また、この度役場第1庁舎1階にデジタルサイネージを2台設置し、そこに行政情報と並行して企業の広告も映します。こちらも収入を見込んでいます。

(委員)

私は大阪に勤めているのですが、そこで播磨町のポスターを見て、播磨町は海が綺麗だなとか、大中遺跡があるんだとか、大阪にいても播磨町のことを知れました。やはり多くの人に知ってもらえることが理想だと思うので、ゆくゆくは広い範囲に広報できるようになればいいなと思います。

(事務局)

来年度には大阪・関西万博が始まります。兵庫県全域での取り組みにはなりますが、その中で播磨町も万博会場でPR動画やポスター掲示を計画しているところです。

(町長)

教育委員会からの要望もあり、播磨町でも小学校6年生と中学生の全学年がバスで万博に行けるように準備を進めております。

(教育長)

私も小学校6年生の時に大阪万博を見に行き、それはもう鮮明に、非常に記憶に残っています。その感動を子どもたちにも経験させてあげたいと思いました。

(委員)

災害時の要支援者の避難方法についてお聞きしたいのですが、すぐに助けることができない人もいます。以前、警報が出ていても避難場所が2つのコミセンしか開設されず、我々の地区から避難するには少し遠かったので、残念な声も多く聞きました。町としてもいろんな事情があると思うので対応は難しいかもしれませんが、災害時には全てのコミセンを避難所にしてもらえるように検討していただきたいと思います。

(町長)

そのときは高潮警報だったので南部コミセンと東部コミセンを開放しました。必要な場合には必ず4コミセンを開放しますし、地震の場合は4小学校に加え、中学校も状況に応じて開放します。

(委員)

私も避難指示を見間違っていたかもしれませんし、一人暮らしの方も不安だから避難したいと思ったかもしれません。

(町長)

そのように思われるのは分かりますが、逆に今いる場所の方が安全である場合もあるので留まっていたきたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。避難も大切ですが、今いる場所の方が安全だという情報も届けられたらなと思います。

では時間の都合もありますので、ここで司会を事務局にお返しします。

閉会

(事務局)

中本会長、円滑な議事進行をありがとうございました。また、委員の皆様、ご意見をいただきありがとうございました。皆様から頂戴いたしましたご意見等を踏まえ、第5次播磨町行政改革の遂行に尽力してまいりたいと思います。なお、本日の会議の議事録につき

ましては、各委員の皆様にご確認いただいたのちに、後日、町のホームページで公開させていただく予定ですので、よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、「令和6年度第2回播磨町行政改革懇談会」を閉会いたします。本日は、ご多用のところありがとうございました。